

「ものづくりって楽しい！」

三井化学株式会社 佐々木 宏子

原稿を依頼され、本企画のバックナンバーを読ませていただき、想像していた以上に多くの方が様々な分野で活躍されているのを知ることができ、私自身非常に参考になりました。私はまだ、入社2年目ということで経験は浅いですが、何かの参考になれば幸いです。

卒業後の進路を決めるにあたって、私は研究職と生産・技術職で迷っていました。大学での研究は面白かったのですが、実際に研究を職業とするのは自分にとって向いているのかわかりませんでした。その一方で、生産・技術系の仕事はOB、OGの方から色々と話を聞いていたものの、実際にどのようなことをしているのかまったく想像できずにいたので、生産・技術系の仕事がどのような仕事なのかを知るためにインターンシップを活用しようと思いました。幸運にも製造現場へ1ヶ月のインターンシップに行くことができ、生産・技術系の仕事に実際に触れることでどのような仕事を行っているのかイメージが出来るようになりました。インターンシップでの経験を通して、モノづくりの面白さ、スケールの大きさに感動し、是非このような仕事に就きたいと思うようになって現在に至っています。

現在は樹脂生産プラントの技術スタッフとして、新規技術の導入に携わっています。技術スタッフというのとどのようなことをやるのか想像がつかないと思いますが、まさに化学工学の知識が必要な職場です。具体的に挙げてみると、プラントの物質収支、熱収支をとって事前に生産上問題になる場所を見つけ出して対策を立てることであったり、シミュレーションを利用して蒸留塔の運転条件を決めたりということを行っています。学生時代には苦手だった化学工学ですが、勉強していることがどのように形になって社会の役に立っているのかということがわかれば、もっと化学工学が面白くなっていたのではないかと思う今日この頃です。今はインターンシップ制度も充実してきていますし、ぜひ早いうちに本物に触れる機会を作って化学工学の面白さを感じてください。

最後に一つ、製造現場で働くことの魅力について。私の感じている一番の魅力は、関わった製品が世の中に出ることです。樹脂なので工場から出荷されるものは最終製品ではありませんが、職場の人と苦労して作った製品が世にでて、それを原料にしている製品を見ると愛着が湧きます。ついつい購入して、家族や親戚に宣伝活動を行っています。そしてもう一つの魅力は、機会があれば新プラント建設のような大きなプロジェクトに参加でき、自分の考えている事を形にできる

ということです。大きなプロジェクトではなくても、ユーザー側のエンジニアとして設備の基本設計をできるチャンスはたくさんあります。いずれ私も形に残る仕事をしたいと思っています。

さて、技術スタッフというと男性ばかりのイメージですが、やはり現実も男性ばかりの世界です。私の勤務している工場では、女性の技術スタッフは一つ上の先輩と私の2人で女性の進出はまだこれからです。女性が少ないということもあって、良くも悪くも目立つ存在ではありますが、仕事をする上で差別というのは感じません。ただ、これからの人生において結婚や出産等のイベントによって選択を迫られる機会が多いのは女性です。学生時代はいろいろと人生プランを考えていましたが、いざ社会人になってみるとそんなものはどこへやらと吹き飛ばしてしまいました。当社でも託児所の開設が決まり女性が働き続けられるような環境が充実してきていますが、働き続けるためには強い気持ちが必要だと思います。それまでに自分の基礎をしっかりと作って、自信を持って仕事を続けられるようにしたいと思っています。

女子学生の皆さん、未来についてあれこれ悩んで無意識のうちに選択肢を狭めるよりも、やりたいと思ったことに向かって精一杯頑張らしましょう。そして一緒にものづくりの世界で頑張ってみませんか？



佐々木 宏子（ささき ひろこ）氏

最終学歴：東京農工大学大学院

応用化学専攻

博士前期課程修了

現 職：三井化学株式会社

市原工場 製造2部 P0技術課